

ザ・マジェスティック ホテル クアラルンプール The Majestic Hotel Kuala Lumpur



80年前の創業当時の名称「Hotel Majestic」をエントランスに掲げるマジェスティック・ウィングの正面ファサード



新設された15階建てのタワー・ウィングの正面ファサード。新旧双方のエントランスにはコロニアル調の制服を着たベルキャプテンが常駐する



メインエントランスにはダイヤモンドが常に立ちゲストを迎え入れてくれる



「The Colonial Café」のフレンドリーなスタッフたち



筆者 小原康裕

ホテルジャーナリスト。
慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年 Munich Re入社。85年築地原健株代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。JHRC、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。
※現在、著者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。
www.jhrca.com/worldhotel

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立ての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

※本連載は毎月2・4週号掲載



マジェスティック・ウィングから俯瞰する「The Majestic Hotel Kuala Lumpur」の全景。1932年に建設されたコロニアル風の伝統あるホテルは、歴史に残る政治的会議や各国要人を迎える迎賓館として使われてきた



ライブのバンド演奏が入るメインダイニング「The Colonial Café」

大きな吹き抜けの天井に据えられた豪華なシャンデリアは見応えがある



スパ棟の前に設けられた屋外プール。正面に見えるのがムーア様式の旧クアラルンプール駅だ



「The Smoke House」と呼ばれる別棟に向かう回廊。シングルルームやカードルーム等を備えた大人の憩いの場だ



アフタヌーンティーが人気の「The Tea Lounge」。バー、ダイニングと有機的に結合した広い空間にある



新設されたタワー・ウィング側にあるオールデイレストラン「Contango」



マジェスティック・ウィングにある「The Governor Suite」のゴージャスなベッドルーム。約55㎡の広さを誇り、窓からは壮麗な外観を持つ旧クアラルンプール駅を望むコロニアル棟を代表するスイートルームである



エレガントな雰囲気が漂うスイートのリビングルーム



アールデコ調のバスルーム。猫足の付いたクラシカルなバスタブが印象的だ

1932年に建てられたクアラルンプールの名門ホテル、ホテル マジェスティックが80年の時を経てザ・マジェスティック ホテル クアラルンプールとして復活し再オープンした。コロニアル風の伝統あるホテルはクアラルンプールのランドマークとして君臨し、歴史に残る政治的会議や各国要人を迎える迎賓館として使われてきた。第2次大戦中は日本軍の司令部として接收され、戦後は建て替えるため取り壊しの危機などに直面したが、83年にマレーシア政府がホテルを強制収容し、遺跡保存法のもと国家遺産として登録し保存の道を開いた。同年末にホテルはその華麗な歴史を閉じたが、翌84年から98年の間、建物は国立美術館として第2の道を歩んで来た。

2012年、伝説のホテルはマレーシアのYTLホテルズによって蘇り、同年12月に再びホテルのドアが開かれた。YTLホテルズを傘下に持つYTLコーポレーションはマレーシア最大級のコングロマリットで、創業者のDr. Yeoh Tiong Lay (楊忠禮)の頭文字を取って名付けられた。東南アジア企業として初の東証上場を果たした大財閥で、マレーシアではいたる所でYTLの広告看板が目につく。また、グループ傘下のYTLホテルズはクアラルンプールのリッツ・カールトンやJWマリオットを保有するほか、多くの高級ホテルを運営している。

ザ・マジェスティックは創業当時の5階建てのマジェスティック・ウィングが完全に修復され、さらに隣接して15階建てのタワー・ウィングも新設された。マジェスティック・ウィングは国の文化遺産として登録された世界でも珍しいヘリテージホテルで、47室のすべてがスイートタイプとなっている。ホテルはタワー棟を含めて全300室のゲストルームを擁しているが、このホテルの神髄は修復されたコロニアル棟にあり、是非バトラーサービス付きのマジェスティック・ウィングの部屋を堪能して頂きたい。このクラシカルなウィングには優雅なメインダイニング「The Colonial Café」、生演奏が入る「The Bar」、そしてアフタヌーンティーが人気の「The Tea Lounge」が有機的に結合し機能している。タワー・ウィングにはオールデイダイニングの「Contango」があり、和食はもちろんエスニック料理を含めて世界各地の料理が楽しめる。そのほか「The Majestic Spa」にはフィットネスや屋外スイミングプールを併設し、「The Smoke House」と呼ばれる建物にはシングルルームやカードルームなど紳士の憩いの場も用意するなど多彩な施設を提供している。

ザ・マジェスティックはムーア様式の華麗な外観を持つ旧クアラルンプール駅の向かいに立地し、隣のマレー鉄道事務局の荘厳な建物や国立モスクなどの歴史的建造物と見事な調和を保っている。市中心部のショッピングセンターやKLセントラル駅には無料のシャトルバスが運行して利便性が高い。静かな歴史地区にある伝統のコロニアルホテルに滞在し、卓越したホスピタリティに癒やしと安寧を得るのも大いに価値があると思う。